

手柄山温室植物園だより

シリーズ：姫路市に見られる身近な植物

## 19. イヌタデ (タデ科イヌタデ属)

*Persicaria longiseta* (De Bruyn) Kitag.

2014年10月

田んぼの畔や道端、土手などに多い一年草です。茎は無毛で下部は地を這い、多く枝分かれし立ち上がります。高さ 20~50 cmで多少赤みを帯びます。葉は広披針形で両端は鋭形、長さ 3~8 cm、幅 1~1.5 cm、表面の縁の付近や裏面の脈上に毛があります。托葉鞘は筒状で外側にあら毛があり、縁毛は長い。花は 6~10 月に穂状に密につけ、長さ 2~5 cm、がくは紅色で 5 深裂し、長さ 1.5~2 mm、瘦果は 3 稜形で光沢のある黒色、長さ 1.5~2 mmです。夏から秋にかけて次から次に咲くので、いつまでも花があるように思えます。分布は北海道、本州、四国、九州、朝鮮、台湾、中国、ヒマラヤ、マレーシアで、日本へは農耕文化とともに古代に帰化したと考えられています。赤い小さな果実を赤飯に見立てて、「アカマンマ」とも呼ばれます。和名の由来は役に立たないタデという意味で、本種は辛くないので、刺身のつまに利用される辛いヤナギタデと比べて名づけられました。

イヌタデ属は 30 余种あり、似た種類が多く分類の困難な属で、茎の毛の有無、托葉鞘の形状、花序の形態などで同定します。水辺を好む種類が多く、オオイヌタデ (*Persicaria lapathifolia* (L.) S.F.Gray) もその一つです。茎は高さ 1.2~2mで無毛、よく分枝して節は太くなり、葉は披針形または卵状披針形で長さ 16~23 cm、葉柄は短く、葉鞘は筒状で下部に赤い脈が目立ち、縁毛はないかまたは短い毛があります。花期はイヌタデ同様、6~10 月で花穂は 7 cmで先は下垂します。



イヌタデ



オオイヌタデ